NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞活用Ⅱ～新聞で地域や人とつながろう～

2．学校名

滋賀大学教育学部附属中学校(滋賀県)

3．実践者名（代表者名）

上田　真也

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科･地理的分野　120人

6．単元（本時の学習課題）名

都道府県の調査～「滋賀県」～

7．目標(狙い)

滋賀県の地理的事象について、具体的資料や自分の意見の根拠となる資料や新聞を活用し、意見交流したり、交流レポートにまとめたすることができる。

8．評価の視点

【資料活用･表現の技能】
滋賀県に関する新聞記事を、その魅力を伝えるという観点で、集めることができているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

都道府県の調査～「滋賀県」～(全8時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第1次　滋賀県は○○な県である　/2時間　第3次　滋賀県の人口増加率はなぜ高い　/2時間
第2次　滋賀県の魅力　/1時間　第4次　滋賀県の交流レポート作成･発信　/3時間

【留意点】
もともと生徒がもっている滋賀県に対するイメージをもとに、それらの根拠となる資料を集めさせ、客観的に滋賀県を捉えさせる活動から学習を展開していくことにした。また、1年生であるということから、社会科における資料の扱い方や調べ方といった情報を集める際のスキル面の指導も要することとなる。さらに、調べたり、グループで調査項目を分担して調べたりするなどの従来の調査活動ではなく、滋賀県の地理的事象として共通の課題を設定し、各自が調査した結果を交流するようにした。
他県交流として、北海道教育大学附属札幌中学校と長崎大学教育学部附属中学校との交流活動の機会を得、互いの県を調査し、レポートやポスターとしてまとめたものを発信した。以上の点からも、情報発信という視点をもった学習展開を行った。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

みなさんのレポートを読んで、滋賀県のことを知れて特に知れたのは歴史に出てくる建物がとても多く日本の中でも上位の方にいるということや人口がどんどん増え滋賀はベッドタウン化しているということ、地価が周りの県に比べて安いことなどが知れました。(長崎大学教育学部附属中学校生徒)

12．成果と課題

新聞活用の新たな試みと他県交流が実施できたことは大きな成果であった。特に、新聞を切り抜くことで注目させたい記事を抽出し、レポートに貼ることで地元の情報を発信することができた。また、生徒自身も滋賀県の魅力に迫るという観点で新聞記事を選び、新聞に親しむ点においても効果的であったと考える。さらに、季節感や話題性といった観点でも地元の新聞記事を集める効果は高かったといえるだろう。また、社会とつながるという点や新聞記事を通して、他県の生徒とつながるという点でも新聞記事を用いることの有用性は高かった。課題としては、新聞活用･他県交流ともに、今後いかに継続させるかという点が挙げられる。